

ニッチトップ企業の技術



風・環境試験事業で提供する
カーテンウォール試験装置(不
二サッシ提供)

同社は主に鉄鋼メーカーが表面探傷検査などに使う非破壊検査装置と、鋼鈑製品への印字・マーキング装置の国内トップメーカー。建材などの性能を検査する風・環境試験装置と合わせて3事業が収益の柱となっている。現在は技術承継を推し進めるマークテックなどを始め、もとは自身が経営者の後継者や海外展開

回りの重要な車両部品の表面探傷検査がメイン。今後、電気自動車化で動力がセーターに置き換わったとき、検査を要する部品数が3分の1程度に減少するときれる。検査二一ツ縮小に対する危機感から、品質保証をベースとした多角戦略を進める方針とした。

掲げる経営ビジョンは事業性と社会課題の基盤強化を図る。

テムを構築する「西日本工場」によるエントラーフィールド・マーケティング事業はM&Aの1号案件である。本田工業と、20年3月に買収した2号案件の風技術セーターによるもの。両社はもともと競合同士だが、21年に同社グループの下で合併に至った。経営資源の最適化により収益性を強化する。

システム開発会社の二社を、今年7月にヒューリックへスケジュールで譲り受けた。一方で、同社がM&Aの対象とする企業は品質保証から海外展開も支援する。

PMI共通基盤移転重視

つなぐ、企業の未来

查事業および印字・マ
キシング事業を中心
に、品質保証ビジネス
長。2018年の風洞
試験装置会社

営業の両面からシミ
ーの最大化に努める。
ニッチトップ企業の技
術承継を通し、世界ト
ップクラスの「品質保
証を科学するモノづくり
集団」を目指す。

收 キス・キーハタ
からプロフェッショナル・マネジメントとし
て派遣されていた西氏
氏が社長に就任した。
従来の非破壊検査業は自動車のエンジン

不存に悩む中小企業受け皿となり中国や南アジアを中心には日本で開拓する。次代を担う経営者育成促す。「ビッグカンパニーではなくグッドカ

東洋の外世も三三シも、20年9月に3号案件として鉄鋼業界向けに本社長は「業績への貢献度は予想以上だ」と話す。手応えを感じている。

開に悩んでいた。そ

同事業の顧客は建材

関連事業を営み、二ツ

やビジネスインフラ、
整備、云々の問題もござ

技術・営業面からシナジー最大化

関連事業を営み、二つ
技術企業だ。成長産業
に属し、そこで競争力
を有すこともポイント
ト。課題に対し改善の
余地はあるか、企業化
の親和性があるかも
出資における重要な判
断基準だといふ。西本
社長は「最終的にその
製品領域の市場入りで
いになれるかを見極め
ている」と語る。
PMTでは共通其般
移転モードを実践する。
強固な科学的アプローチ
による精神的支柱と
ロードマップ内
性の尊重をダブルで
の共通基盤と設定。被
買収企業の経営基盤を
維持しつつ品質保証
を科学するモノづくり
の実現を目指す。
現在は人材評価システム
の導入を進めており、
達成度の見える化
などを推進。人材の定
着にもつなげる。
さらに被買収企業の
役員を対象にアリ
ケ調査も実施。營業部
門設置によるシナジー

やビジネススクワード
整備による見る見る化
期待を寄せていると
かたつ。一方、高い
績目標へのプレッソ
いや部下の業績評価
に対する説明責任への
安も抱えていること
判明した。

西本社長はこれらの
技術承継の難しさを
めつゝ、親会社として
管理職を育成する必
要があるといふ。西本
長は「最初の3年が本
質的に自己考案を
負。社員に自己考案を
癖を付けてもらつて、
がマークシックとの
調整シナジーに欠か
ない」と話す。

3月に立ち上げた新
成品・塗料の受託生
産事業や、成長を見込
れる3Dプリンター
野でも技術承継を確
している。西本社長は
「日本はニッチトッ
のきらいと光沢の技術
を持つ企業が多い。こ
らの受け皿としてシリ
ジーを発揮し、大き
く発展させたい」と意
込む。

株式会社産業新聞社 発行

日刊産業新聞 第20558号（2022年11月8日）